



最も単純な真実って何だろう？
ニューヨークで、パリで人気爆発

a film by
HAL HARTLEY
SIMPLE
MEN

新鋭ハートリーいよいよ日本上陸
ハードボイルド・メルヘンの出発！

シンプルメン

冒険とロマンス
トラブルとデザイン
一匹狼気どりの兄と純情な弟
父捜しの旅に出た兄弟の
シンプルな〈愛〉の発見



ハル・ハートリー監督・脚本作品

●1992年カンヌ映画祭正式出品作品 ●ロバート・パーク、ウイリアム・セイジ、カレン・サイラス、エリナ・レーヴェンソン、マーティン・ドノヴァン、ジョン・アレクサンダー・マッケイ ●撮影マイケル・スピラー ●美術ダニエル・オーレット ●音楽ネッド・ライフル/挿入曲ソニック・コース(KOOL THING)、ヨラ・テンゴ ●制作 TRUE FICTION PICTURES/アメリカ映画・カラー・1×1.66
©MCMXCII ZENITH PRODUCTIONS LTD.
ALL RIGHTS RESERVED

フランス映画社配給
バウ・シリーズ作品



ニューヨーク・インディーズから爽やかな新風

●ジム・ジャームッシュやスパイク・リーに続くニューヨーク・インディーズの新しい才能の誕生とハル・ハートリーの名が囁かれ、90年代に入って急速に世界の映画祭の注目を集めている。

ハートリーは1959年11月ニューヨーク州ロング・アイランド生まれで、長篇第1作『アンブリーヴァブル・トゥルス』は89年29才の作品。90年発表の第2作『トラスト・ミー』(90、大映とフランス映画社の共同配給で近日公開)は全米アート系公開でヒットし、世界の10映画祭に招待され、パリでは30週を超えるロングラン。そして92年カンヌ映画祭に初登場でいきなり正式作品に選ばれたのが、この長篇第3作「シンプルメン」だ。意固地な兄と純情な弟の父捜しと恋の物語を爽快な笑いで描き、ハードボイルド・メルヘンの新風をカンヌに送りこんで喝采を浴びて、世界の桧舞台でのデビューを鮮やかに飾ったばかりか、ニューヨーク、パリの一般公開でも『トラスト・ミー』に倍する堂々の大ヒットを飛ばしている。

●シンプルそのものの語り口で、これぞというセリフにこれぞという映像、音楽で鮮やかにきめる。このシンプルな映画には心とインテリジェンスが豊かに詰まっている。=仏<ル・モンド>紙

●ジャームッシュやウディ・アレンのように、一目でそれとわかるオリジナルなスタイル。=カナダ<NOW>誌

●あのバスター・キートンの精神が蘇っている。=米<インタビュー・マガジン>誌



【スタッフ】
監督・脚本・製作=ハル・ハートリー/撮影=マイケル・スピラー/美術=ダニエル・オーレット/音楽=ネッド・ライフル/挿入曲=ソニック・ユース<KOOL THING>他/製作=テッド・ホープ/製作=ジェローム・ブラウンステイン

【キャスト】
兄ビル・マケイブ=ロバート・パーク/弟デニス・マケイブ=ウィリアム・セイジ/ケイト=カレン・サイラス
エリナ=エリナ・レーヴェンソン

1992年アメリカ映画/TRUE FICTION PICTURES制作/カラー(1x1.66)1時間46分/日本語字幕 戸田奈津子/宣伝デザイン小笠原正勝/©1992 ZENITH PRODUCTIONS LTD.

シンプルメン

SIMPLE MEN
ハル・ハートリー
監督・脚本作品

パウ・シリーズ作品
フランス映画社配給



ロング・アイランドでの愛の発見の旅

●物語の序章はニューヨーク。兄ビルは知能犯で渡り歩く一匹狼。コンピューター強盗に見事に成功しながら愛する女ヴェラに裏切られて心に大きなヤケド。一方、弟デニスとは哲学部の真面目な学生。父ウィリアム・マケイブが23年ぶりに逮捕された記事を読んで、ようやく父に会えると興奮している。父はメジャー・リーグ屈指の名遊撃手だったが、68年にペンタゴン爆破事件の容疑で失踪したままだった。が、父はすぐまた脱走。兄弟は<タラ>という名前と電話番号だけを手がかりにロング・アイランドへ。父捜しの旅なのにビルは、二度と恋なんかしない、次に会った女はしっかりホレさせてпойと捨てる、とハードな宣言。アドベンチャーもロマンスも、そんなものはありはしない、人生はトラブルと欲望だけ、とイキがるビルだが。

兄弟が出会うのは、土の香りのする女ケイトと、ルーマニアから来た不思議な少女エリナ。父が、もう、すぐそこにいる……。

●孤独で人なつっこい、不思議な魅力にあふれた登場人物たち。間髪をいれず繰りだされる磨きぬかれたセリフ。シャープな色彩感覚と豊かな呼吸の音楽。(音楽のネッド・ライフルは、実はハートリー自身。)コメディを基調に、快適なテンポで語りこむ演出は、前半でイキのよい笑いを連続的に爆発させながら、後半でポエジーに昇華させ、登場人物それぞれにとっての、かけがえのないシンプルなものをはつき彫りにしていく。



12月上旬より
お正月ロードショー

日比谷・東宝映画街
シャンテシネ2
TEL 03(3591)1511

●上映時間(連日)
10:30 12:40 2:50 5:00 7:10
●12/31は5:00の回まで 1/1は12:40の回より上映

特別鑑賞券1400円
好評発売中(当日一般1700円の他、大高生1500円)

劇場窓口、都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケットゼン、CNプレイガイド、大学生協 他
●グループ鑑賞のお申込は株メジャー(3541)2508へ